

# 英米文化学会会報

第 85 号

平成 22 年 10 月 15 日



I-55 のセントルイスとシカゴの間、リンカーン。

アメリカのインターステイト・ハイウェイ・システムは、実に分かりやすい。ロードサインを見ているだけで、どこまでも行けそうな気がする。こうして今日も、予定にはなかったところまで走ってしまうのである。どこまでも、どこまでも。(イリノイ州にて撮影：佐野 2006年9月)

## 目次

- ◆ 例会担当より 英米文化学会第 133 回例会のお知らせ  
英米文化学会第 134 回例会発表者募集
- ◆ 学術担当より 学会誌『英米文化』  
第 41 号初代会長大島良行先生追悼号論文募集
- ◆ 財務担当より 未納年度分の扱いについて (一部再掲)
- ◆ 事務局より 会員消息

◆ 英米文化学会 133 回例会のお知らせ (例会担当理事： 田嶋倫雄)

日時：平成 22 年 11 月 13 日 (土) 午後 3 時 00 分～6 時 00 分

午後 2 時 30 分受付開始予定

場所：日本大学歯学部 3 号館二階第 5・6 講堂 <地図は 5 頁>

(JR 御茶ノ水、営団千代田線新御茶ノ水、都営新宿線小川町他下車)

懇親会会場：日本大学歯学部3号館地下ラウンジ、例会と同じ建物の地下です。

会費：2,000円 午後6時00分～8時00分

懇親会のみ参加も歓迎いたします。

## 開会挨拶

英米文化学会会長 小野 昌（城西大学） （3：00－）

## 研究発表

### 1. トマス・ハーディの『妻ゆえに』における談話分析

（3：10－3：50）

発表 鈴木理枝（国際短期大学）

司会 平川敦子（立正大学）

### 2. 自己出版の現状と展望 – 事例紹介 –

（3：50－4：20）

発表 佐藤治夫（日本大学）

田嶋倫雄（日本大学）

司会 北林 光（大東文化大学）

----- 小休止（4：20－4：30） -----

### 3. ミックス法の可能性と課題 – 量的研究と質的研究の融合 –

（4：30－5：10）

発表 金子智香（茨城大学）

司会 森千佳子（東京純心女子大学）

### 4. パプアニューギニアにおける英語から借用した身体語彙の意味の拡張性

（5：10－5：50）

発表 黒沢 毅（大東文化大学大学院）

司会 大東真理（拓殖大学）

## 閉会挨拶

英米文化学会副会長 曾村充利（法政大学） （5：50－）

## 研究発表抄録

### 1. トマス・ハーディの『妻ゆえに』における談話分析

鈴木理枝（国際短期大学）

M.A.K.ハリデーの機能文法理論の中心は、テキストの意味の体系を機能で解釈することである。節には3つの異なる意味の領域があると述べている。「メッセージとしての節」「交換としての節」「表示としての節」である。あらゆる言語において、節はメッセージとして組織立てられると同時に、話し手ないし書き手と、その受け手を含む対人的相互作用の事象として組織立てられると明言している。発話役割のうちもっとも基本的なものには、「与える giving」「要求する demanding」の2つのタイプがあり、話すという行為は相互作用であり、ハリデーは交換と呼んでいる。

本発表では、ハリデーの機能文法の中から、交換としての節に焦点をあて、ハーディの短編小説『妻ゆえに』を用いて、法の分析をして、主人公のジョアンナを中心に行われる交換を通して、聴き手に与えている影響、また要求している意味について発表する。

### 2. 自己出版の現状と展望 – 事例紹介 –

佐藤治夫（日本大学）

田嶋倫雄（日本大学）

書籍の出版の際に大きな障害となり得るものとして、出版して「くださる」出版社を見つける事と費用が挙げられる。出版は出版社サイドからの見方として、その本が売れるかどうか、特に経費対収益などに縛られることが多く、書籍そのものの意義は二の次というのが「他者出版」の状況と言える。現在ネット上での電子出版の頻度が急速に高まり、従来の紙製の書籍出版と販売に迫る勢いを示している。「自己出版」は電子出版を前提にした考え方で、著者の立場から見た出版形態を指している場合が多い。費用の点でも従来の出版形態とは比較にならない安さで、このため気軽に出版の可能性を考えることができる。本発表では、自己出版の分かりやすい形態として、電子書籍を含むオンデマンド出版形式による実際の本の出版を例とし、登録・ISBN番号の取得から実際の本のデザインや出版完了までの流れを紹介し、今後のオンデマンド出版を利用することについて考察する。

### 3. ミックス法の可能性と課題 – 量的研究と質的研究の融合 – 金子智香 (茨城大学)

量的研究と質的研究の要素を組み合わせたミックス法が使用され、議論もされている。また、2007年には *Journal of Mixed Methods Research* が発刊され多くの論文が寄せられている。演繹法を用いる量的研究と、帰納法を用いる質的研究とでは、その前提となる理論、研究デザイン、研究手順において異なり、特に 1970 年代から 1980 年代には対峙するものだとみなされてきた。しかし今日では、単一の研究法にとらわれることなく、量的研究と質的研究の要素を必要に応じて取り入れることがそれぞれの学問分野の発展につながるという見解から、ミックス法の使用が見られるようになってきている。ところが、量的研究と質的研究の可能な組み合わせ形態が多種多様であるにもかかわらず、ミックス法を用いた研究の多くがアンケートと半構造的インタビューの組み合わせにとどまっているのが現実のようである。本研究では、この原因を考察することにより、現状のミックス法が抱える課題と今後の展望について論じる。

### 4. パプアニューギニアにおける英語から借用した身体語彙の意味の拡張性 黒澤 毅 (大東文化大学大学院)

パプアニューギニアは、人口約 600 万人、そして約 800 以上の民族集団、言語を有するメラネシア地域最大の国家である。公用語には、英語(広域言語)、モツ語(パプア地域)、トクピジン(ニューギニア地域)の3種類があり、歴史的背景により地域、階層によって使用する共通言語が異なっていた。現在、特に首都ポートモレスビー(パプア地域)においては、トクピジンの使用頻度が以前にも増して進行している。トクピジンの語種は、約80%が英語、約13%が現地語、残りがマレー語、ドイツ語などから成り立っている。英語からの借用語に立脚すると、その意味が従来の英語の意味概念から拡張した語彙を作り出している。それは、制限された語彙数が比喩法により、言語表現を作り、そしてその語彙の意味を拡張させ、またその現象と意味を写像的に結び付けて、さらに語彙の意味を拡張させている。本発表は、トクピジンの身体語彙を中心に例を挙げ、英語とトクピジンの意味概念の差異から意味の拡張性を認知意味論的観点から示す。

◆英米文化学会第 134 回例会（平成 23 年 3 月開催）発表者募集

上記の例会（3 月 12 日）の発表者を 1 名募集いたします。発表時間は 40 分です。発表のご希望者は、ご氏名と所属（勤務先）、研究発表題名と抄録をメールで、以下のメールアドレスにお送り下さい。

締切日は 1 月 12 日、例会会場は日本大学歯学部（御茶ノ水）です。

発表申し込み先：例会担当田嶋倫雄 MichioTajima(at)SES-online.jp です。

\* 例会・懇親会会場（日本大学歯学部 3 号館）



JR・地下鉄： JR 中央線・総武線 御茶ノ水駅  
 都営地下鉄 新宿線 小川町駅 営団地下鉄 千代田線 新御茶ノ水駅  
 営団地下鉄 丸ノ内線 御茶ノ水駅 営団地下鉄 丸ノ内線 淡路町駅

◆ 学術担当より

(学術担当理事：上野和子)

学会誌『英米文化』第41号 初代会長大島良行先生追悼号論文募集

当学会の学会誌『英米文化』第41号の原稿締め切りは10月末日です。

投稿原稿は、担当の上野和子（〒154-0017  
東京都世田谷区世田谷3-22-21）までお送りください。

## 学会誌『英米文化』投稿規程

### <投稿規程>

1. 本誌は、英米文化学会の機関誌であり、原則として一年に一回発行する。
2. 投稿原稿は、英語文化における文学、文化、語学、英語教育などの論文とし、未発表のものに限る。ただし、学会で口頭発表したものについてはその限りではない。その旨を明記した注を、表紙1頁に入れること
3. 投稿資格 本学会員とし、投稿する当該年度までの会費を完納している者に限る。
4. 応募締め切り 毎年10月末日までに、原稿3部と、記録媒体に入れたファイルならびに略歴(所属学校・機関、研究分野、主要研究テーマ)を学術担当まで送付すること。
5. 原稿掲載の可否 学術委員会による査読を経て決定する。
6. 編集、校正は、編集学術委員会にて行なう。執筆者校正は二校までとする。初校は一週以内、再校は3日以内に返送すること。期限を過ぎても返送されない場合に、学術委員会は掲載を断る権利を有する。
7. 上記以外の案件については、理事会の判断が優先される。

## ＜執筆要項＞

1. 長さ・形式 和文論文は 12,000 から 16,000 字数の間にまとめる。A4 用紙に 38 字×25 行、フォント 12 で打ち出す。英文論文も 5,000 から 7,000 語数を目安とし、A4 用紙に 75 字×25 行とする。
2. 和文論文には、英文表題をつけること。応募論文は、論文の筆者名、所属名(非常勤の場合は(非)、大学院生の場合は(院)と付記)、論文題名、口頭発表に関する注記、謝辞などは表紙にのみ記載し、論文第一ページ以降は題名と本文のみとする。なお、日本名のローマ字標記は原則として姓名の順にする。例 山田太郎 YAMADA Taro
3. 英文・和文の論文は共に、200語程度の英文の Abstract をつける。英文論文については、専門職によるネイティブ・チェックを受けた後に投稿すること。
4. 本文への注釈
  - a) 注は本文の記述順にアラビア数字を附し、後注とする。
  - b) 外国の人名、書名などは、初出の箇所で日本語の後にマル括弧付で、綴りを併記する。書式の細部に関しては、『MLA新英語論文の手引き』(北星堂)の最新版に遵うものとする。
5. 提出する原稿には、CD、DVD、フロッピーなどの記録媒体いずれかを添付する。
6. 執筆者負担金は『英米文化』出版後、財務委員会で負担額を算定し、執筆者に通知する。執筆者には、掲載誌 5 部と抜き刷り 50 部を進呈する。負担金は一頁につき 2000 円である。

以上

◆財務より 未納年度分の扱いについて (一部再掲)  
(財務担当理事：山根正弘)

今年度分の年会費納入がお済みでない方は、郵便振替にてお振込み下さい。  
さて、過去に未納がある場合、振り込まれた最新の年会費は未納年度に振り替えて補填するため、実際に入金した年度と年会費台帳上の記録が一致しないことがあります。皆様の年会費は入金年月日・入金額・年度・入金方法（郵便振替通知票の続き番号）など記載し管理しております。

なお、振替用紙は5月の会報に同封いたしましたが、ゆうちょ銀行・郵便局に備え付けの振込取扱票もご利用できます。

納入状況の問い合わせ：山根正弘 MasahiroYamane(at)SES-online.jp

年会費：5,000円

口座番号：00160-7-611777

加入者名：英米文化学会

<おことわり>

メールアドレスの表記については、@入りのメールアドレスを検索・流用して迷惑メールを送りつける悪質な業者が、昨今、多いようですので、「@」を「(at)」に置き換えて表記させていただきます。メール作成のときには、お手数とは存じますが(at)を@に置き換えてご送信いただきたくお願いいたします。

◆事務局より 会員消息 (事務局担当理事：大東俊一)

省略

英米文化学会会報 第85号 編集／発行：英米文化学会 編集責任者：佐野潤一郎  
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀5-27-23

英米文化学会事務局 〒339-8539 さいたま市岩槻区馬込1288 人間総合科学大学人間科学部 大東俊一研究室  
内

Tel:048-749-6111(office), 03-5399-3395(home) E-mail:ShunichiDaito(at)SES-online.jp

年会費等振込先：郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777

学会ホームページ <http://www.SES-online.jp/indexj.html>